

～在ハンガリー日本大使館～

2009年9月

— Monthly Review —

全 19 頁

政治・経済月報(8月号)

政治・内政

- 夏休みムードの中、内政に大きな動きはみられなかったが、ロマ人襲撃事件の犯人逮捕やネオ・ナチによるイベント等が社会の注目を集めた。

政治・外交

- ハンガリー・スロバキア間の対立は、21日のスロバキアによるショーヨム大統領入国拒否により頂点に達した。
- 「汎ヨーロッパ・ピクニック」の20周年を記念する式典には、メルケル独首相、シュピンデルエッグー外相ら外国要人が出席した。

経済・社会

- 高速道路M6の延伸工事は、2010年3月31日の期限までに完了する見込み。
- 中央統計局(KSH)は、7月の消費者物価指数が前年同月比5.1%上昇と発表。
- 2010年の政府財政バランスは、今年と比べ少なくとも3千億フォリント(約12億ユーロ)の歳入減となる見通し。
- 中央統計局(KSH)の第一予測によると、第2四半期のGDPは前年同期比マイナス7.6%で5期連続の下落。
- 中央銀行(NBH)の速報値によると、政府財政赤字は総額19兆9,670億フォリント(738.5億ユーロ)で、GDPの76.9%に相当。
- 中央銀行(NBH)の金融協議会は、基準金利を50ベース・ポイント下げ8.00%とすることを決定。
- 中央統計局(KSH)によると、2009年前半のハンガリーの運送会社による運搬総量が前年同期から13%減少。
- 政府資産管理局(AKK)は、日本市場で債券販売を行うための登録を更新。

○インフレ率	(y/y)	(2009年7月)	5.1% (食品: 4.9% エネルギー: 7.7%)
		(2008年平均)	6.1% (食品: 10.2% エネルギー: 12.7%)
○貸金上昇率*	(y/y)	(2009年6月)	1.1% (民間: 5.9% 公的: -9.7%)
		(2008年平均)	7.5% (民間: 8.4% 公的: 6.2%)
○鉱工業生産	(y/y)	(2009年6月)	-18.8%
		(2008年平均)	1.1%
○失業率(15-74歳)		(2009年5月～ 2009年7月平均)	9.7%
○政策金利		(2009年8月末)	8.0% (8月24日に0.5%の利下げ)
○10年国債利回り			8.40%
○為替相場		(月中平均)	・1ユーロ = 269.69 フォリント
			・1ドル = 189.10 フォリント
			・1フォリント = 0.50 円

* 中央統計局(KSH)は、今年1月から5月までの数値を6月分の公表に合わせて改定しました。

《今月のトピックス》

- **I. 内 政**
 1. ロマ人襲撃事件
 2. ブダペスト交通社退職金問題
 3. ネオ・ナチによるイベント計画
 4. 同性愛者パレードをめぐる動き

- **II. 外 交**
 1. 「汎ヨーロッパ・ピクニック」20周年記念式典
 2. ショーヨム大統領に対するスロバキアの入国拒否
 3. フィッシャー・チェコ首相のハンガリー訪問
 4. バラージュ外相、「ブレッド戦略フォーラム」に参加

- **III. 経 済**
 1. Ecostat、7月の信頼感指数は改善
 2. GKI、2009年の景気後退は更に深くなると予測
 3. 上期に清算手続きを開始した企業数が2008年の70%に到達
 4. 高速道路M6の延伸工事は計画通り完了見込み
 5. 6月の貿易黒字は更に拡大（速報ベース）
 6. アナリストは鉱工業生産、貿易収支が改善し続けると予想
 7. アナリストはVAT引上げにより7月の消費者物価指数の上昇を予測
 8. 7月のハンガリーの外貨準備高は294.1億ユーロに
 9. 政府は投資家を安心させる来年度予算の編成を行う方針
 10. 7月の消費者物価指数は5.1%
 11. 財務省、1月～9月及び通年の財政赤字ターゲットを遵守
 12. 経済的苦難にも拘わらず企業は投資を計画
 13. 今年のマンガリツァ・ハムの米国への販売が1000～2000頭へ
 14. 2010年は3千億フォリントの歳入減
 15. 第2四半期のGDP、前年同期比-7.6%、前期比-2.1%
 16. 6月の農業生産者価格、13%下落
 17. 6月の鉱工業生産、18.8%下落
 18. 7月の新車販売台数、72.7%下落
 19. 政府財政赤字、第2四半期末にGDP比76.9%

20. 2010年の財政赤字対GDP比は目標値を1%上回る可能性
21. 6月の総賃金上昇率は1.1%
22. 中央銀行は2009年のGDPを-6.7%と予測
23. 基準金利の50ベース・ポイントの利下げを決定
24. GKIの消費者・企業信頼感指数は4ヶ月連続で改善
25. 外国人旅行者のハンガリーでの支出が21%上昇(2009年前半)
26. 5月から7月までの平均失業率: 9.7%
27. 中央銀行によるインフレ率の予測
28. ハンガリーにおける荷物運搬が13%減(2009年前半)
29. ハンガリーが日本での債券販売登録を更新
30. 投資は対前年同期比-4.7%(2009年第2四半期)
31. 工業生産者価格が対前年比6.0%上昇(7月)
32. 年金支払い額が2008年に10%以上上昇

IV. その他

- ・ 8月の選挙・支持政党に関する世論調査
- ・ 8月の為替・金利動向
- ・ 主な出来事

I. 内 政

1. **ロマ人襲撃事件** (3日ー)

(1) キシシュレータ母子殺傷事件

3日未明、ハンガリー北東部キシシュレータ村にて、ロマ人女性とその娘（13歳）が何者かに銃撃され、同女性は死亡、少女が重傷を負う事件が発生した。ハンガリーでは昨年夏以来、類似の事件が連続して発生しており、バイナイ首相は、5日、更なる同様の事件の発生防止を警察に要請、10日には捜査の進捗状況につきショーヨム大統領に説明を行った。ショーヨム大統領は、バイナイ首相との会談の後、ロマ人社会の安全確保は、国の道徳的義務であると述べるとともに、殺人事件はロマ人問題ではなく、ハンガリー全体の治安に関わるものだと述べた。

(2) ロマ人連続襲撃事件容疑者の逮捕

21日未明、デブレツェン市内のバーにおいて、一連のロマ人襲撃事件容疑者として28歳から42歳の4名が逮捕された。逮捕現場からは、武器や弾丸の他、地図等も押収され、犯人グループは次の計画を立てていたとされる。25日、国家警察は、4名のうち2名のDNAが現場に残されたDNAサンプルと一致したことを発表、昨年来のロマ人襲撃事件（9件の事件で6人が死亡、1人が重傷）全てに関わっていたことが明らかになった。

2. **ブダペスト交通社退職金問題** (9日)

市営会社であるブダペスト交通社（BKV）のサライネー・シラージ人事部長（7月末辞任）が数百万フォリントの退職金を受け取った後も引き続き同社で勤務し120万フォリントの月給を受け取っていた問題につき、9日、コチシュBKV社長の要請に基づき、ブダペスト市警察が捜査を開始した。その後も複数の元幹部が多額の退職金を受領していたことが発覚、31日、ハジョー・ブダペスト副市長は、BKV監督権者の辞任を表明した。（9月2日、デムスキー市長は、BKV取締役会及び監査役会の解散を発表した。）

3. **ネオ・ナチによるイベント計画** (10ー15日)

10日付ネープサバツャーグ紙は、ネオ・ナチ団体が、15日にナチ党副党首であったルドルフ・ヘスの命日を記念する行進やコンサートをブダペスト

Republic of Hungary

で計画していることを報じた。バイナイ首相は10日、ハンガリー及びブダペストがネオ・ファシストの天国になってはならないと、同イベントの禁止を警察に要請、ショーヨム大統領も11日、同計画に衝撃を受けたとのコメントを出した。

警察当局は、「集会は犯罪行為を行う又は煽動してはならず、他者の権利と自由を犯してはならない」として、提出されていた全10件の届け出を13日までに全て不許可とした。15日、ブダペスト市内では反ファシストの集会に約400人が参加したが、大きな混乱はなく終了した。

4. **同性愛者パレードをめぐる動き** (28日)

(1) 9月5日に予定されている同性愛者パレードに関し、野党フィデスのエーケシュ・イロナ議員が、警察に対して同パレードを禁止するよう要請する書簡を送付した。同議員は、同パレードを倫理、治安、秩序に対する脅威であるとともに、市内の交通が制限されることから、他者の移動の自由を制限するものであると主張している。

(2) これに対してハヴァシ・フィデス報道部長は、同議員は個人の見解を表明したに過ぎないとし、党としてのコメントは避けた。また、社会党は、国会人権委員会委員であるエーケシュ議員に対して委員辞職を求めた。保守派である野党ハンガリー民主フォーラムのダーヴィド党首も、いかなるマイノリティーに対する攻撃も受け容れられるものではないと同議員を批判した。

II. 外 交

1. **「汎ヨーロッパ・ピクニック」20周年記念式典** (19日)

(1) 19日、オーストリア国境に近いショプロン市近郊の汎ヨーロッパ・ピクニック記念公園で、1989年の東独市民の西側脱出の契機となった「汎ヨーロッパ・ピクニック」の20周年を記念する式典が開催された。同式典には、記念事業名誉総裁を務めたショーヨム大統領のほか、ビルト瑞外相、メルケル独首相、シュピンデルエッガー欧州・国際関係相らが参加した。

(2) 式典では、フィルトゥル国会欧州委員会副委員長、トゥーケーシュ欧州委員、ショーヨム大統領、メルケル首相らがスピーチを行ったほか、20周年を記念した記念碑除幕式が行われた。メルケル首相は、20年前、ハンガリー

人が、不自由の身で苦しんでいた人々（旧東独民）のために隷属の門を解き放ってくれたことに対し、ドイツを代表するものとして感謝する旨述べると共に、汎ヨーロッパ・ピクニックの実現に寄与したネーメト元首相、ポジュガイ元内相、オットー・ハプスブルグ氏の功績を称えつつ、旧東独民に自由の翼を与えたハンガリー人、自由の渴望を世界に示した約600名の越境東独民の人々に対し謝意を表明した。

2. ショーヨム大統領に対するスロバキアの入国拒否（21－25日）

（1）ショーヨム大統領に対するスロバキアの入国拒否

（イ）21日、ショーヨム大統領は、スロバキア外務省の入国拒否通告を受け、同日に予定していたスロバキア南部コマルノ市への私的訪問を中止した。今次訪問は、同市及びスロバキア側立像設立委員会が聖イシュトヴァーン像（注）の除幕式に同大統領を招待したことを受けて計画されていたが、19日にガシュパロヴィッチ・スロバキア大統領、フィツォ同首相、パスカ同国会議長が共同声明を発出して同日の訪問に反対したほか（注）、21日にスロバキア外務省が入国拒否通告を出したため、大統領は国境まで向かったものの訪問を中止した。

（ロ）立像除幕式には約2－3千人が参加し、ヘイゼル駐スロバキア・ハンガリー大使が大統領祝辞を読み上げた。一方、ショーヨム大統領は国境の橋において記者会見を行い、警備上の観点と理由とした入国禁止通告は事実を反映したものでないこと、両民族共通の国王である聖イシュトヴァーンの像が両民族共通の将来を象徴するものとなるよう望むこと、今回の入国拒否に関しては国際場裡を含め必要な外交措置をとること等につき述べた。

（2）ハンガリー政府の反応

ハンガリー政府は、ショーヨム大統領に対する入国禁止措置を「根拠のない」もので、「遺憾かつ受け容れがたい」ものとみなす旨の声明を発出したほか、バラージュ外相は、今回のスロバキアの対応は前例のないもので、EUの規範、精神に反するとし、同問題については国際社会及びEU各国に周知せしめるとともに、当国スロバキア大使を召喚して事情説明を求める旨述べた。

（3）スロバキア大使館への火炎瓶投擲事件

25日夜半、スロバキア大使館に2つの火焰瓶が投擲され、26日朝出勤した大使館員により発見された。火焰瓶は発火することなく、同事件による人的・物的被害は生じなかった。同事件に対し、ショーヨム大統領は、かかる暴行はいかなる場合にも受け容れられず、犯人の早期逮捕・処罰を望む旨の声明を発出した。また、バイナイ首相は、事件は公法的犯罪の最も嘆かわしいもので、政治や歴史とは関係なくあらゆる観点で非難されるべきである旨述べた。

Republic of Hungary

(注1)：ハンガリー王国の初代国王。

(注2)：反対理由として、21日が1968年の「プラハの春」鎮圧のためハンガリーを含むワルシャワ条約機構軍がチェコスロバキアに侵攻した日にあたり、外交的挑発にあたること等が挙げられた。

3. **フィッシャー・チェコ首相のハンガリー訪問** (24-25日)

(1) バイナイ首相との会談 (24日)

24日、フィッシャー・チェコ首相がハンガリーを訪問し、バイナイ首相と経済危機やエネルギー安全保障など両国共通の課題につき協議した。さらに、バイナイ首相は、最近のスロバキアとの懸案事項につき説明したほか、ロマ問題につき、共通の中欧ロマ戦略を策定すべくV4の枠組でイニシアティブをとる意向を示した。

(2) シリ国会議長との会談 (25日)

25日、フィッシャー首相はシリ国会議長と会談し、両国議会間関係やEU議長国経験の共有、リスボン条約批准への状況などにつき意見交換を行った。

4. **バラージュ外相、「ブレッド戦略フォーラム」に参加** (30-31日)

30-31日、バラージュ外相はスロベニアのブレッド湖畔で開催された第4回「ブレッド戦略フォーラム」に参加した。同外相は、フォーラムの安全保障関連ラウンドテーブルで欧州安全保障協力機構の重要性等につき発言したほか、ミロシヨスキー・マケドニア外相と会談してEU加盟状況につき意見交換した。また、ライチャーク・スロバキア外相との会談では、両国間懸案事項の解決へ向け9月初頭に首脳会談を実施することにつき合意した。

Ⅲ. 経 済

1. **Ecostat、7月の信頼感指数は改善** (3日)

7月の大企業100社の信頼感指数は2%上昇し57.8%となった。専門家は実体経済の危機は2010年半ばに頂点に達すると述べたが、第2四半期以降の信頼感指数の改善は経済危機が収まりつつあることを示している。

2. **GKI、2009年の景気後退は更に深くなると予測** (3日)

GKI (政府寄りシンクタンク) は、Erste (エアステ) 銀行と共同で作成したプロジェクションの中で、2009年のハンガリー経済は前回5月の予測より1%以上悪化しマイナス6.5%になる見込みであることを示した。また、GKIは、2009年の財政赤字(対GDP)が政府予測の3.9%を僅かに下回る3.8%となり、VAT引き上げ等により消費者物価インフレ率は下期に一時的に上昇し年末は7%、年間平均で5%となると予測した。基準金利は年末には7%に、下期の為替レートは270~275フォリントと予測した。

3. **上期に清算手続きを開始した企業数が2008年の70%に到達** (4日)

上期のハンガリー企業に対する清算手続き開始件数が既に14,122件に達し、昨年全体の約70%のレベルまで到達したとCreditreform社が発表した。債権者又はサプライヤーから申し立てられた会社は前年同期に比べて36%増加し7,517社に、自主清算企業は60%増加し6,590社となった。

4. **高速道路M6の延伸工事は計画通り完了見込み** (4日)

高速道路M6の65km延伸工事(Dunaujvaros-Szekszard間)を実施している共同事業体の代表は、2010年3月31日の期限までに工事が完了できる見込みであることを確認した。

5. **6月の貿易黒字は更に拡大(速報ベース)** (6日)

中央統計局(KSH)は、6月の貿易収支が速報ベースで549百万ユーロの黒字となったと発表した。また、2009年上期は前年同期の322百万ユーロから大幅に増加し2,077百万ユーロとなった。6月の輸出は前年同月比でマイナス21%、輸入はマイナス29%で、5月の輸出マイナス24.1%、輸入マイナス32.3%と比較してマイナス幅は縮小した。

6. **アナリストは鉱工業生産、貿易収支が改善し続けると予想** (6日)

アナリストは、中央統計局(KSH)が予想以上の鉱工業生産、貿易収支等

の発表を行った後、MTI社に対してこれらの数値は改善し続ける見通しであると述べた。

MKB銀行のコンラット氏は6月の鉱工業生産のマイナス幅の縮小は国内需要の増加、すなわち消費者が7月1日のVAT引上げ前に駆け込みで購入をした結果であると述べた。また同氏は、MKB銀行が以前6月の鉱工業生産はマイナス21.1%と予想していたと発言した。

MKB銀行のアナリストは前月比ベースで5月、6月共に鉱工業生産が増加したことは鉱工業生産の下落が今年初に底打ちしたことを示唆しているとコメントした。コンラット氏は2009年全体では鉱工業生産はマイナス19%となると予測している。

ライフアイゼン銀行のテレク氏は2009年の鉱工業生産はマイナス12.3%と予想しているが、鉱工業生産の下落が今年初に底打ちしたことに関してはコンラット氏の意見に賛同した。

コンラット氏は6月の貿易黒字はMKB銀行の予想315百万ユーロ、ロイター予想449百万ユーロと比べて大きかったとコメントし、2009年全体では、最近のアナリストのコンセンサスである2,500百万ユーロを上回る3,000百万ユーロ以上になると述べた。

MKB銀行のアナリストは、6月の輸入落ち込みは国内のエネルギー消費の減少と石油価格の下落によるもので、更なる石油価格の下落がガス価格の下落を引き起こし、貿易収支の更なる改善につながると述べた。

7. **アナリストはVAT引上げにより7月の消費者物価指数の上昇を予測** (7日)

Napi Gardasag 誌の調査によると、アナリストは7月の消費者物価指数が6月の3.7%から大幅に上昇して6.1%になると予想している。不況で需要が低下している中、小売店がどの程度の額でどの程度速やかに5%のVAT上昇を価格に転嫁しようとしているのかをアナリストは思案しており、食品では80~85%、耐久消費財では65~70%、それぞれVAT上昇分が価格に転嫁されると見ている。

8. **7月のハンガリーの外貨準備高は294.1億ユーロに** (7日)

中央銀行(NBH)は、速報値として7月末の外貨準備高が6月末から24.6億ユーロ増加して294.1億ユーロとなったと発表した。この中には、10億ユーロのユーロ債、IMF、EU、世界銀行と昨年11月に合意した200

億ユーロのパッケージによりEUから引き出した15億ユーロも含まれていると考えられる。また、2008年末から53.69億ユーロ増大した。ハンガリーは6月末までにIMFの200億ユーロのパッケージから140億ユーロ相当を引き出しており、そのうち80億ユーロは使用し、残りの60億ユーロを外貨準備に当てている。

9. **政府は投資家を安心させる来年度予算の編成を行う方針** (10日)

バイナイ首相は、社会党会派のミーティング後、安定した予算、つまり、これまでに達成した結果を確認し、また、それらを継続し、世界の投資家に対し明確なメッセージを伝える予算の編成が政府の危機管理プログラムにおける次のステップであると発言した。また、200億ユーロのサポート・パッケージにおけるIMF、EUとの合意を引用しながら、「我々はハンガリーの安定のベースとなっているこれらの約束、合意を固守する予算を準備しつつある」と述べた。翌年の予算は、Stability (安定)、Growth (成長)、Security (安全)に関わるものであると述べ、更に、治安、社会的秩序、労働への感謝が優先事項であると付け加えた。

10. **7月の消費者物価指数は5.1%** (11日)

中央統計局(KSH)は、7月の消費者物価指数が、前年同月比ベースで6月の3.7%から上昇し5.1%、前月比ベースで0.1%上昇して1.3%となったと発表した。

VATは7月1日に20%から25%に引き上げられ、物品税もまた増税となったが、これらの増税による影響を除くと7月の消費者物価指数は前年同月比で1.4%、前月比でマイナス2.1%となる。

なお、事前のアナリスト予想は6.1%だったが、予想を下回った理由について、アナリストはMTI社に対して調査対象品目のいくつかの部分において増税の影響がでるまでに遅れがあったためと述べた。トリッポンCIB銀行チーフ・アナリストは、家計が7月のガス代、電気代の支払いを行う時期を考慮すると、増税の影響が完全に現れるまでに更に2~3ヶ月を要する見込みであると述べた。また、同氏は年末の消費者物価指数は8%まで上昇するとの見解を示した。

11. **財務省、1月~9月及び通年の財政赤字ターゲットを遵守** (11日)

財務省のカトナ副大臣は、1月～9月及び通年の一般政府財政赤字の予測は共に変更されるべきではないと述べた。財務省は7月の速報値を確認し、詳細レポートを火曜日に公表した。1月から7月までのキャッシュフロー・ベースの一般財政赤字（地方自治体を除く）は8,158億フォリントとなり、また、1月から9月までは1兆677億フォリント（対GDP比で4.1%）と財務省は予測した。また、通年では9,918億フォリント、対GDP比で3.8%のターゲットを守れると財務省は見ている。

12. **経済的苦難にも関わらず企業は投資を計画**（11日）

国営のハンガリー開発銀行（MFB）のガル主任エコノミストは、不利な経済環境、悪化する資金調達状況にも関わらず、約60%のハンガリー企業は恐らく翌年にかけて投資を実行する見込みであることをMFBが開発した新しい指標が示していると述べた。また、ガル氏は、資金調達及び投資の計画は、経済危機が既に底打ちしていることを示していると述べた。MFBの指標（100ポイント・スケールで38.2ポイント）は、マクロ経済、マーケット、資金調達、投資を代表する4つの補助指標から計算される。最初の代表的な調査は2009年6月に実施され、339社のハンガリー企業から回答を得た。41.6%の企業が翌年にかけて確かに投資を行うと回答し、16.5%が恐らく投資を行うと回答したことから、補助指標の中で投資に関する指標が最も高い数値となりほぼ50ポイントであった。新規プロジェクトを計画している会社の約44.7%は新規技術に投資を行い、41.6%は市場におけるポジションを安定させるための投資、39%は生産又はサービスの拡大のための投資を行うと回答した。MFBは2009年のGDPはマイナス6.5%、2010年はマイナス0.5%と予測しているが、マクロ経済に関する指標は21.2ポイントとなり、今後12ヶ月の間に5～7%の経済収縮が起こることを予測しているとガル氏は述べた。マーケットに関する指標は37.7ポイントとなり、企業はマクロ経済と比較して市場環境には楽観的であることを示している。

13. **今年のマンガリツツァ・ハムの米国への販売が1000～2000頭へ**（12日）

ハンガリー産マンガリツツァ豚から製造されたハムが2009年は1000～2000頭に到達する見込みであると全国マンガリツツァ生産者協会のトオース社長はMTI社に語った。マンガリツツァ・ハムはスペイン企業 Monte Nevado 社により米国で販売されており、3年物は4キログラムで500～60

Republic of Hungary

0米ドルで販売されている。ハンガリーでは毎年50,000頭のマンガリツァ豚が食肉処理され、約半数はハンガリー最大の食肉会社 Pick Szeged 社が行っている。トオース社長は Pick Szeged 社もマンガリツァ・ハムで近々米国市場への進出を図る見込みであると述べた。

14. **2010年は3千億フォリントの歳入減** (12日)

オスコー財務大臣は、2010年の政府財政バランスについて、今年と比べて少なくとも3千億フォリント（約12億ユーロ）の歳入減となるとの見通しを発表し、来年における政府の財政赤字抑制の目標値である3.8%を達成するためには、同額の歳出削減が必要になるとした。

15. **第2四半期のGDP、前年同期比-7.6%、前期比-2.1%** (13日)

中央統計局の第一予測によると、第2四半期におけるGDPは、前年同期比マイナス7.6%、前期比マイナス2.1%（季節・暦調整後）となり、5期連続で前期からの下落となった。ただし、下落幅は5期ぶりに緩和した。

ハンガリーの景気後退は、前期比マイナス1.0%となった昨年第3四半期から始まり、続く昨年第4四半期は同マイナス1.9%、今年第1四半期が2.6%（すべて季節・暦調整後）であった。

中央統計局による第2四半期のデータの発表後、複数のアナリストは、GDPの前年同期比マイナス7.6%の落ち込みは今回の景気後退において最大の収縮幅となるだろうと予測している。

16. **6月の農業生産者価格、13%下落** (13日)

中央統計局は、6月における12ヶ月間の生産者価格が前年比マイナス13.0%となり、下落幅は4月、5月（それぞれ19.9%、21.7%）に比して緩和したと発表した。

17. **6月の鉱工業生産、18.8%下落** (14日)

中央統計局の第二報によると、6月における12ヶ月間の鉱工業生産は（暦

調整前・調整後ともに) 前年同期比マイナス18.8%となった。8日に発表された速報値(-18.6%)をわずかに下方修正した。5月はマイナス22.1%。月ごとの比較では、(暦調整前・調整後ともに) 前月比1.7%の上昇となり、上昇幅は5月の2.6%を下回った。

18. **7月の新車販売台数、72.7%下落** (17日)

Jato Dynamics (民間調査会社)によると、7月の新車販売台数は前年比マイナス72.7%の3,806台となった。前月は同マイナス60%、1月から7月までの台数はマイナス54.7%の52,528台であった。

19. **政府財政赤字、第2四半期末にGDP比76.9%** (17日)

中央銀行(NBH)の速報値によれば、政府財政赤字は総額19兆9,670億フォリント(738.5億ユーロ)で、これはGDPの76.9%に相当する。なお、6月末に比べ、第1四半期末はフォリントが対ユーロで11.9%安の記録的低値だったため、同期末の財政赤字は21兆7,890億フォリント(対GDP比82.9%)に上っていた。

20. **2010年の財政赤字対GDP比は目標値を1%上回る可能性** (18日)

財政協議会(予算案に関する独立諮問機関として、議会在昨年11月に設置した機関)は、経済危機による歳出増・歳入減により、2010年の財政赤字は目標値である対GDP比3.8%を1%程度上回る可能性があると発表した。同協議会は、歳出増・歳入減となる原因として、それぞれ、国有企業の営業損出拡大や失業手当の支払い増加、および法人税収の減少を指摘している。

21. **6月の総賃金上昇率は1.1%** (19日)

中央統計局(KSH)は、6月における12ヶ月間の総賃金上昇率について、5月の2.9%を下回って1.1%であったと発表した。純賃金の上昇率は0.9%(5月は2.1%)。6月のCPI(消費者物価指数)3.7%上昇を加味した実質賃金は2.7%の下落であった。

2 2. **中央銀行は2009年のGDPを-6.7%と予測** (24日)

中央銀行 (NBH) は、2009年のGDP：-6.7%、年平均インフレ率：4.5%との予測を発表した。どちらも、政府の予測と同じ値である。また、2010年、2011年のGDPについては、それぞれ-0.9%、3.4%、年平均インフレ率については、それぞれ4.1%、2.1%と予測している。

2 3. **基準金利の50ベース・ポイントの利下げを決定** (24日)

中央銀行 (NBH) の金融協議会は、基準金利を50ベース・ポイント下げて8.00%とすることを決定した。

基準金利は、今年1月に50ベース・ポイント下げて9.5%とされた後、7月に市場の予測値 (50ベース・ポイント) を上回る100ベース・ポイントが引き下げられた。7月の会合においては、グローバル市場の動向も見極めつつ、2009年中に更なる金融緩和を行う可能性が示唆されていた。

2 4. **GKIの消費者・企業信頼感指数は4ヶ月連続で改善** (25日)

GKI (政府寄りシンクタンク) によると、8月の消費者・企業信頼感指数は、7月の-35.2ポイントから-32.4ポイントへと改善し、4ヶ月連続の改善となった。

2 5. **外国人旅行者のハンガリーでの支出が21%上昇 (2009年前半)** (25日)

中央統計局 (KSH) は、2009年前半における外国人旅行者のハンガリーでの支出が、21%上昇し、5440億フォリントに達したと発表した。一方で、外国でのハンガリー人の支出は25%上昇し、3790億フォリントであった。また、ハンガリーにおける外国人旅行者の数は、5.5%上昇して1790万人に上った。外国へのハンガリー人旅行者は780万人だった。

2 6. **5月から7月までの平均失業率：9.7%** (26日)

中央統計局 (KSH) は、5月から7月までの平均失業率が9.7%であっ

たと発表した。失業者数は40万7200人に上った（15歳から74歳までの範囲で計算した場合）。第2四半期（4月から6月まで）の9.6%からわずかに上昇した。前年同期は7.5%であった。

27. **中央銀行によるインフレ率の予測**（26日）

中央銀行（NBH）は、消費者物価上昇が2010年第1四半期にピークを迎え6.3%となった後、同年第3四半期に2.5%まで急落、2011年には2%以下になるとの予測を発表した。

28. **ハンガリーにおける荷物運搬が13%減（2009年前半）**（26日）

中央統計局（KSH）は、2009年前半のハンガリーの運送会社による運搬総量が前年同期から13%減少し、1億3999万6千トンとなったと公表した。この内訳は、国内輸送が10.8%減の1億149万4千トン、国際輸送が18.1%減の3850万3千トンである。

29. **ハンガリーが日本での債券販売登録を更新**（27日）

政府資産管理局（AKK）は、日本市場で債券販売を行うための登録の更新を行った。この登録更新については単なる手続きであり、ハンガリーが日本やその他の国で債券の発行を準備しているということは意味していない。

ハンガリーは、2004年以降に2000億円のサムライ債を発行していた。

30. **投資は対前年同期比-4.7%（2009年第2四半期）**（28日）

中央統計局（KSH）は、ハンガリーにおける第2四半期の投資が対前年同期比4.7%減となったとの速報値を発表した。第1四半期の対前年同期比7.7%減に引き続いての減少となった。

31. **工業生産者価格が対前年比6.0%上昇（7月）**（31日）

中央統計局（KSH）は、工業生産者価格が、6月の対前年同月比6.6%上昇に引き続き、7月にも対前年同月比6.0%上昇したと発表した。

32. **年金支払い額が2008年に10%以上上昇** (31日)

中央統計局 (KSH) は、ハンガリーにおいて2008年にGDPの11.6%に相当する3兆620億フォリントの年金が支払われていたとの調査研究結果を公表した。年金の支払い額は、前年と比較して10.6%上昇していた。ハンガリーにおける2008年の年金受給者数は、303万1千人であり、全国民の30.2%に相当する。

IV. そ の 他

《8月の選挙・支持政党に関する世論調査》(注)

1. 支持政党の変遷 (確実に投票に行くと回答し、いずれかの政党を選択した者の支持政党)

	(6月)	(7月)	(8月)
(与党)			
社会党 (MSZP)	19%	21%	18%
(野党)			
フィデスーハンガリー市民連盟 (Fidesz)	66%	65%	63%
自由民主連盟 (SZDSZ)	1%	1%	1%
ハンガリー民主フォーラム (MDF)	2%	2%	2%
キリスト教民主国民党 (KDNP)	0%	0%	0%
(非国会政党)			
政治の新しい形 (LMP)	0%	1%	1%
ヨッビクーハンガリーのために	10%	9%	12%
その他政党	2%	2%	2%

2. 質問事項: 仮に今週日曜日に総選挙があるとすればどの党に投票するか (質問者全員よりの回答)。

(与党)	
社会党 (MSZP)	12%
(野党)	
フィデスーハンガリー市民連盟 (Fidesz)	36%
自由民主連盟 (SZDSZ)	1%
ハンガリー民主フォーラム (MDF)	2%
キリスト教民主国民党 (KDNP)	0%

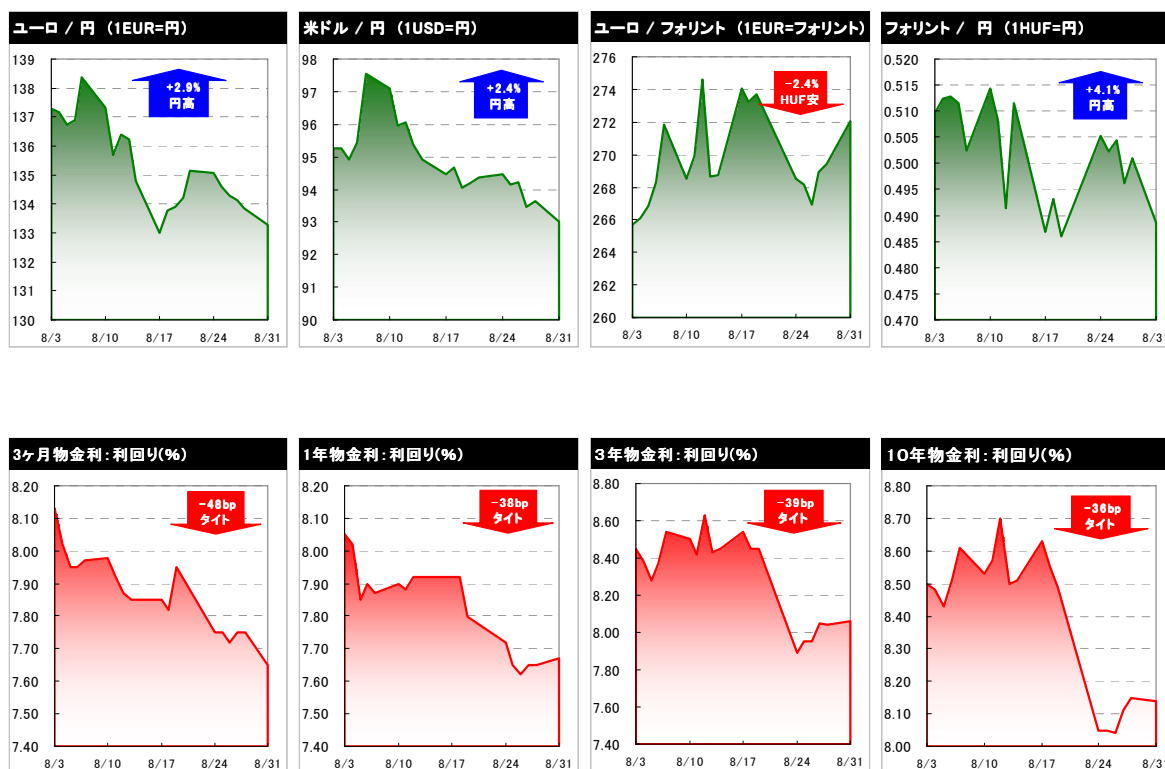
Republic of Hungary

(非国会政党)

政治の新しい形 (LMP)	1 %
ヨッビクーハンガリーのために	7 %
その他政党:	2 %
わからない、投票しない	39 %

(注) ソンダ・イプソシュ社調べ (8月3-9日データ収集。サンプル数: 18才以上の市民1500人)

《8月の為替・金利動向》



Republic of Hungary

《8月の主な出来事》

日	内政	日	外政
2	・ロマ・ホロコースト追悼式典、ブダペストにて開催。	3	・ショーヨム大統領、バラージュ外相、国会外交委員会がスロバキア国語法への対処につき協議。
3	・ハンガリー北東部キシシュレータにてロマ人女性及び娘に対する銃撃殺傷事件発生。 ・ブダペストにてヨッビクが反政府デモを開催。	15	・ヘルマン欧州委員会地域問題政務次官、ノルウェー及びアイスランド欧州大使に指名される。
4	・フィチョル秘密諜報担当相、9月14日付での辞任を表明。	19	・メルケル独首相、ビルト瑞外相らを招き、ショプロン市で「汎ヨーロッパ・ピクニック」20周年記念式典が実施される。
5	・バイナイ首相、更なるロマ人襲撃事件の防止を警察当局に要請。	21	・ショーヨム大統領、イシュトヴァーン像除幕式のためのスロバキア訪問を拒否される。
7	・フィデス報道部長、ヨッビクとの連立を否定。	24	・バラージュ外相、ショーヨム大統領のスロバキア訪問禁止措置に関しスロバキア大使を召喚。
9	・ブダペスト市交通社（BKV）退職金問題で警察が捜査開始。	24-25	・フィッシャー・チェコ首相、当地訪問。バイナイ首相とエネルギー問題、ロマ問題などにつき協議。
10	・バイナイ首相、15日のネオ・ナチによるイベント実施の阻止を警察当局に要請。 ・ショーヨム大統領、一連のロマ人襲撃事件につきバイナイ首相と会談。	25	・駐ハンガリー・スロバキア大使館に火炎瓶が投げ込まれる。
12-13	・ブダペスト市警察、15日のネオ・ナチによる行進イベント申請全10件に対して不許可の決定。	30-31	・バラージュ外相、「ブレッド戦略サミット」出席のためスロベニアを訪問。
15	・反ファシスト・デモがブダペストにて開催される。		
19	・「汎ヨーロッパ・ピクニック」20周年記念式典が開催され、ショーヨム大統領、バイナイ首相等が出席。		
20	・建国記念日行事が各地で開催される。 ・ネーメト元首相等が叙勲される。		
21	・ロマ人襲撃事件の容疑者が逮捕される。		
22	・解散を命じられたマジダル・ガールダ、センテンドレにて500人規模の集会を実施。		
28	・エーケシュ・フィデス議員、9月に予定されている同性愛者パレードの禁止を警察に要請。		
29	・バイナイ首相、社会党執行部と地方政府予算削減等2010年予算大枠につき合意。		
30	・社会党、エーケシュ議員の国会人権委員会委員辞職を求める。		

Embassy of Japan in Hungary

1125 Budapest Zalai ut 7. Hungary
TEL :+36-(06)-1-398-3100

E-Mail

政務関係 : political@japanembassy.hu

E-Mail

経済関係 : economic@japanembassy.hu

E-Mail

広報文化関係 : culture@japanembassy.hu

E-Mail

領事関係 : consul@japanembassy.hu